

予防接種の一般的な副反応

接種した当日～1週間以内に発熱、接種部位の発赤腫脹、場合によってはしばらくしてから硬結が生じることがあります。咳や鼻水などの風邪症状が現れることもあります。基本的には様子を見ていても大丈夫です。

同時接種によりそれぞれのワクチンの副反応が起こりやすくなる、ひどくなることはありません。

接種後 30 分以内

ワクチン接種後 30 分は急な副反応がみられる可能性があります。ずっとクリニックにいる必要はありませんが何かあったらすぐに受診できるところにいてください。

アナフィラキシー：接種直後から 30 分以内に全身が赤くなる、呼吸が苦しくなるなどの症状が出るのが極まれにあります。場合によっては命に係わる危険性がある状態なので速やかに治療が必要です。

血管迷走神経反射：年長児のワクチン接種時に起こる可能性があります。

注射の痛みや恐怖、不安により自律神経が刺激され気分が悪くなる、顔色が悪くなるなどの所見がみられます。失神してしまうこともあります。しばらく横になって安静にしていると回復します。

時々アルコール綿で消毒すると直後から皮膚が赤くなる方がいます。特に治療は必要ありませんが、以降はアルコール以外の消毒液を使います。

発熱

接種した当日～翌日に発熱することがあります。37.5℃の微熱から 39℃を越す高熱まで可能性はあります。一度発熱したからといって次のワクチン接種で必ず発熱するわけではありません。

発熱しても元気で哺乳力もしっかりしていれば夜中に慌てて救急病院にかかる必要はありません。2日以上高熱が続いたり、ぐったりして哺乳もできないようでしたら受診してください。特にぐったりして何かおかしいと感じたときは救急病院を受診してください。

接種部位の反応

発赤、腫脹、疼痛などの局所反応がどのワクチンでも見られます。腫れた後に小さなしこりが皮下に残ることもありますが、2,3か月すると消えてなくなります。

5cm ぐらいまでの腫れはよくみられるのであまり心配する必要はありません。少し冷やしてあげるといいでしょう。腕全体が腫れるほどのものは受診してみていただいた方がいいでしょう。

感冒症状

ワクチン接種後1週間以内に咳、鼻水などの風邪症状がみられることもあります。カゼなのか、ワクチンの副反応なのかを明確にすることはできませんが、軽度であれば薬も必要ないので受診する必要はありません。

ぐずる、よく寝る

小さな赤ちゃんにワクチン接種をするといつもよりぐずる、逆にずっと寝ているといった症状がでることが時々あります。元気で哺乳力もしっかりしていれば特に問題なく数日でおさまります。